



Title	太宰治スタディーズ 第4号 著者紹介
Author(s)	
Citation	太宰治スタディーズ. 2012, 4, p. 238-239
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/97716
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

著者紹介（五十音順）

青木京子（あおき・きょうこ）

佛教大学大学院博士課程文学研究科国文学専攻修了、博士（文学）。愛知文教大学教授。著書『太宰文学の女性像』（2006.6、思文閣出版）、論文「太宰文学と詩」（『愛知文教大学比較文化研究』2010.11）、「人間失格」の構成 — 動物表現の方法」（『愛知文教大学比較文化研究』2011.11）等。

井原あや（いはら・あや）

大妻女子大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程満期退学。博士（文学）。現在、大妻女子大学文学部・同短期大学部・相模女子大学非常勤講師。論文「禁じられた恋」のゆくえ — 女性週刊誌『ヤングレディ』に掲載された「実名連載小説」をめぐって」（『大妻国文』2012.3）など。

内海紀子（うつみ・のりこ）

お茶の水女子大学大学院博士後期課程単位取得退学。日本大学・共立女子短期大学・聖心女子大学非常勤講師。「桜桃」論 — 占領下の〈革命〉」（山内祥史編『太宰治研究』第19号、2011.6）、「文案記者（アドライター）・大手拓次」（安中市ふるさと学習館編『薔薇の詩人 — 大手拓次の生涯 — 』2007.10）など。

大國眞希（おおくに・まき）

東京学芸大学連合大学院修了、博士（教育学）。現在、川口短期大学教授。人間によって象徴化されたとの視点から文学作品を、絵画や音楽との比較を通じて研究している。近年は特に音に注目した、環境教育と文学教育の横断的研究を推進中。論文「水中のミュートとプレス — 太宰治『秋風記』」（『iichiko』2011.10）等。

小澤純（おざわ・じゅん）

1976年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程修了。博士（文学）。現在、慶応義塾志木高等学校教諭、早稲田大学非常勤講師。論文「震災以後の〈ジャナリズム〉 — 芥川龍之介「伝吉の敵打ち」と「梅花に対する感情」以後 —」（『文藝と批評』2011.11）、「田舎者」が〈故郷〉を書き散らすまで — 初期太宰文学における〈葛西善蔵〉表象の考察 —」（『昭和文学研究』2012.3）など。

斎藤理生（さいとう・まさお）

1975年生まれ。大阪大学大学院文学研究科修了。博士（文学）。現在、群馬大学教育学部准教授。論文「60年目の『人間失格』 — パラテキストからテキストへ」（『季刊 iichiko』2010.10）、「織田作之助『馬地獄』の方法 — 北尾鐙之助『近代大阪』を手がかりに」（『国語国文』2011.12）など。

滝口明祥（たきぐち・あきひろ）

1980年生まれ。学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻博士後期課程単位取得退学。博士（日本語日本文学）。現在、学習院大学文学部助教。論文「『占領下の「平和」、交錯する視線 — 井伏鱒二「花の町」』（『国文学研究』2011.6）、「エクリチュールの臨界へ — 井伏鱒二『黒い雨』」（『学習院大学文学部研究年報』2012.3）など。

長原しのぶ（ながはら・しのぶ）

関西学院大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程修了。博士（文学）。現在、関西学院大学・四国学院大学・新居浜工業高等専門学校非常勤講師。「『一日の労苦』〈内〉と〈外〉を繋ぐもの」（『太宰治研究 18』2010・5、和泉書院）、「太宰治『地球図』論 — 〈聖〉の純化と〈俗〉化する場」（『太宰治スタディーズ』第3号、2010・6）など。

野口尚志（のぐち・なおし）

1976年生まれ。筑波大学大学院博士課程人文社会科学研究科文芸・言語専攻日本文学領域在籍。「太宰治『猿面冠者』論 — 作家として立つための模索 —」（『稿本近代文学』2005.12）、「太宰治『ロマネスク』論 — 「嘘」による〈芸術〉の夢想 —」（『稿本近代文学』2007.12）等。

平浩一（ひら・こういち）

早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程修了。博士（文学）。現在、国士舘大学専任講師。論文「生成する〈読者〉表象 — 太宰治『道化の華』の位置」（『日本文学』2008.12）、「比喩の文学現象 — 一九七〇年代以降の〈文芸復興〉観について」（『国文学論輯』2011.3）など。

松本和也（まつもと・かつや）

1974年生まれ。立教大学大学院文学研究科博士課程後期課程修了、博士（文学）。現在、信州大学准教授。著書『岸田國土の世界』（2010.3、翰林書房、共著）、論文「昭和十年前後の“リアリズム”をめぐって — 饒舌体・行動主義・報告文学」（『昭和文学研究』2007.3）、「言葉の力、物語の力 — 川上弘美『七夜物語』を読む」（『ゲストハウス』2012.4）ほか。

吉岡真緒（よしおか・まお）

1972年生まれ。國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期満期退学。現在、國學院大學・昭和女子大学附属昭和高等学校非常勤講師。「手稿から見えてくるもの — 太宰治『右大臣実朝』原稿について」（『展望 太宰治』2009.6、ぎょうせい）、「太宰治『陰火』論 — 共にあろうとすること」（『太宰治スタディーズ』第3号、2010.6）など。

水川敬章（みずかわ・ひろふみ）

名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期課程単位取得満期退学。現在、同大学大学院同研究科博士研究員。論文「比喩と差別 — 土方巽の舞踏と批評の力学をめぐる断想」（『Juncture』2010.1）、「太宰治、リパッケージそして、『嫌われ松子の一生』」（『iichiko』2010.7）、「押井守の戦後（史）表象と実在性 — 『鉄人 28 号』、『立喰師列伝』をめぐって」（『層』2011.3）など。